

西中学校だより



# 一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和6年5月1日  
第2号  
上尾市立西中学校長  
宮田 純生

## 啐啄同時（そったくどうじ）

校長 宮田 純生

今年度、西中学校の目指す教師像を「啐啄同時を意識し、生徒・保護者から信頼される教師」としました。

啐啄同時とは「禪」の言葉で、「そったくどうじ」と読みます。啐啄同機と呼ばれることもあります。同じ意味で使われます。

「そつ」は雛が内側からたまごのからをつつくこと。「たく」は親鳥が外側からからをつつくことを言います。

雛は自分のくちばしでたまごの殻をつつき、生まれてきます。少しずつ時間をかけて自分で自分の殻を割っていきます。親鳥は雛のペースに合わせて、それを補助する意味で、外から殻をつついていきます。

雛がまだ十分に成長していないのに、親鳥が先につついて（からを破って）しまつては、雛は生まれません。

また、雛がつついていても、親鳥がつつかないと雛は生まれません。つまり、親鳥と雛のタイミングが合うと、雛がスムーズに生まれる（たまごから出てこられる）という意味です。

早すぎてもダメ、遅すぎてもダメ、親鳥と雛のタイミングが重要です。つまり、子どもが「やろう」としている時を見計らって、親鳥がサポートする。そのタイミングが大事だということです。これは、教師と子どもの関係にそっくりです。

子どもは一人ひとり違います。その子のペースに合わせて、教師も関わる必要があります。子どもが自分でやろうとしているのを待ちきれず、先回りして教師がついつい手助けしてしまうことは、子どものやる気をなくします。なぜならば、そうしていると、子どもの自主性が育たないからです。子どもは本来、自分で伸びていく力を持っています。関わり方で、その力を伸ばすこともできるし、つぶしてしまうこともあるのです。

また、教師のタイミングが遅れると子どもは学習がわからなくなってしまい、諦めてしまいます。私たちは、教師という職業ですから子どものタイミングを観察し、適切な支援をすることが大切です。

学習にはねらい（目標）があり、その学習の過程で一人一人の理解度や課題の解決にかかる時間は違います。

挙手をさせたり、机間指導をすることにより子どもの一人一人の学習状況を確認し、一人一人に応じた支援をすることが啐啄同時に繋がります。

家庭でも中学生として、子どもの心情や状況によって適切なアドバイスや支援が必要であると考えます。

